

## 特集「2016年度研究会優秀賞受賞論文紹介」にあたって

中臺 一博

(株式会社ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン)

小林 一郎

(お茶の水女子大学)

人工知能学会には、2017年11月現在、第1種から第3種まで合わせて22の研究会が組織されています。この22研究会のおのおのが単独、他学会との連携、あるいは合同研究会で年間2～4回の研究会を開催しています(2016年度の開催総数は53回、一般発表の論文数は476件)。また、一部の研究会は全国大会でオーガナイズドセッションを実施しています。中でも、合同研究会は、全国大会と双璧をなす研究イベントとして、多くの研究会が参加し、2011年以降、毎年開催されています。実際、2016年11月9日(水)～12日(土)に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催された合同研究会2016は、参加15研究会、発表件数114件(一般発表)、招待講演17件、企業展示18社、参加者数814名(合同研究会2015では548名)と大盛況でした。また、合同研究会2017は、2017年11月24日(金)～25日(土)に慶應義塾大学矢上キャンパスで、昨年と同様15の研究会が参加し、開催されました(開催報告は学会誌に別途掲載予定)。

このようにアクティブに活動を行っている研究会活動に対して、人工知能学会は、各研究会の年間発表件数の5%に相当する件数を目途に、毎年、研究会優秀賞受賞論文を選出しています。選出のプロセスは、各研究会から候補選出を行った後、その候補に対して、研究会運営委員会、および理事会が、選考過程の透明性や内容の妥当性を審議、受賞を決定する形になっており、時間をかけ、厳正な審査を行っています。

また、研究会運営委員会では、研究会優秀賞を授与するだけでなく、これを研究会活動の発展により貢献できるよう、以下の四つの目的の下、前述の合同研究会の中で「研究会優秀賞記念講演」をシングルセッションとして企画・開催してきました。

- (1) 優秀賞受賞者を奨励し、その研究内容を広く知ってもらおう。
- (2) その年度の「研究会の顔」ともいえる優秀賞受賞論文を通じて研究会の活動内容を世に広く知ってもらう。

表1 2016年度研究会優秀賞受賞論文一覧

研究会名	タイトル	著者
FPAI	順列のサイクルタイプ同値類分割に対する順列決定グラフの適用	井上ほか
	同順位を含む研究室配属問題のCSPソルバーによる解法の検討	藤井ほか
KBS	Proposition of Kernelized Evolutionary Distance Metric Learning for Semi-supervised Clustering	Kalitha ほか
SLUD	議論における意図のモデル化と質問応答を繰り返しながら議事録を生成するシステムのプロトタイプینگ	三浦ほか
ALST	論理の三角モデルを用いた三方向論理組み立て活動の設計と演習システムの開発・評価	北村ほか
Challenge	RoboCup サッカーにおける枝刈りを用いた行動制御	田中ほか
LSE	話題遷移に適応した駄洒落ユーモア統合型対話システムの性能評価	谷津ほか
	自閉症者との言外の意味を含む会話を支援するシリアスゲームの研究	矢吹ほか
SAI	POS データを用いた購買行動の季節変化の分析と視覚化	原田ほか
FIN	深層学習とウェブレットを用いた多変量時系列予測器	塩野
KST	現場ごとの多様な介護業務プロセス知識の獲得方法の検討	西村ほか
KSN	企業内 Portal を活用したグローバルコミュニケーション・プロセスについて	増田ほか
SWO	DNN を用いた RDF 上の単語間の関係の予測	大貫ほか
DOCMAS	プローブカーデータに基づく公共交通機関の車両エージェント構築と都市交通シミュレーションへの適用	金月ほか
BI	金融規制が金融システムの安定性や金融機関行動に与える影響についてのシミュレーション	菊地ほか
AIMED	大脳動脈輪三次元形状を用いた脳動脈瘤発生予測	安木ほか
AM	料理レシピの文書構造に注目した関連語推薦と対話的な検索質問拡張への応用	安川
AGI	人型エージェントの表情動作に対する否定的情動表出プロセスを表現する定性的脳機能モデルの提案	田和辻ほか

- (3) 研究会間の相互理解を深める。
- (4) 合同研究会参加者数を増やす。

しかし、「研究会優秀賞記念講演」企画を開始した頃とは状況に変化が見られるようになってきました。(1)、(2)については、合同研究会参加研究会数が増加、それに伴い優秀賞受賞論文数の増加が顕著であることから、研究会優秀賞記念講演をシングルセッションとして維持することが難しくなっています。シングルセッションとして維持することができなくなれば、(3)の効果が薄れてしまうことが危惧されます。また、(4)は、近年の人工知能ブームと相まって、毎年5割近い参加者増が続いています。合同研究会における「研究会優秀賞記念講演」企画の当初目的は達成されたと考え、(1)、(2)

をさらに推し進めるべく、今回は、人工知能学会誌特集として研究会優秀賞受賞論文紹介を企画いたしました。

表1に示すように2017年は、前年度、つまり2016年4月～2017年3月の発表から18件の研究会優秀賞が決定しました。いずれも、その年の各研究会を代表する論文となっていますので、この特集でご興味をもたれた方は、AI書庫や各研究会のホームページなどで論文をダウンロードいただき、ご一読いただければと存じます。また、今後の研究会開催についても本学会や各研究会のホームページに情報が載っています。さらに、メーリングリストでも適宜、情報をお送りしておりますので、ご参加、およびご発表をご検討いただければと存じます。